

科目名	PC演習			担当教員名	坂本 勝			<input type="checkbox"/> 実務経験		
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)		学科	学年		2		単位数(時間数)	2単位(40時間)	
実施時期	5月	～	7月	授業形態	講義		演習	<input checked="" type="checkbox"/>	実習	<input type="checkbox"/>
教科書 及び参考書	試験過去問 コンピュータサービス技能評価試験 表計算部門3級 テキスト&問題集 (中央職業能力開発協会)									
授業の概要とねらい										
コンピュータサービス技能評価試験 表計算部門 2級 (または 3級)の検定対策とし、試験科目範囲に沿って、Excelの基礎～応用機能まで一連の操作を学ぶ。資格取得に必要な技術力を身につけ、オフィスソフトの利用・作成方法の知識・技術向上を目指す。										
到達目標										
Excelの基礎～応用機能の操作が行えること。 コンピュータサービス技能評価試験 表計算部門 2級 (または 3級) の合格を目指す。										
授業計画										
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)					
オリエンテーション				1	試験概要と授業の流れの説明を行う。					
ワークシートへの入力				1	教科書の各章順に復習を行う。					
関数の入力、入れ子				2						
ワークシートの設定				2						
リストのデータ操作				2						
グラフ作成				2						
印刷				1						
ブック管理とファイル操作				1						
演習問題1				3	教科書に載っている演習問題を実施する。 間違えた個所については、一度やり直しを行い 後日再度演習問題を解くことで定着を図る。					
演習問題2				3						
演習問題3				3						
検定試験対策				18	試験過去問等を使用し検定試験に向けて演習・対策を行う。					
検定試験実施				2	検定試験を実施する。実施後は担当教員へ報告する。					
合 計				40						
時間外学習について										
試験科目の範囲演習が終了しない場合は、自己学習を行うこと。 演習問題の復習が時間内に終わらない場合は時間外で復習し、次の模擬試験に臨むこととする。										
成績評価の方法及び評価割合について										
検定試験の結果を100%で評価する。評価は、評価点が100点をS、90点以上をA、80点以上をB、70点以上をCとし、69点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものはD(不可)とする。										
その他(科目と実務経験との関連性について)										

科目名	フロントエンドプログラミング		担当教員名	新名 康行・森崎 真由美		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)		学科	2	単位数(時間数)	2単位(40時間)		
実施時期	5月	～	9月	授業形態	講義	△ 演習 ○ 実習	実技	○は主、△は併用
教科書 及び参考書	「初心者からちゃんとしたプロになるJavaScript基礎入門」(エムディエヌコーポレーション) 「JavaScriptの教科書」(SB Creative)							
授業の概要とねらい								
Webサイト・Webアプリ・スマホアプリのWeb画面などの、多くの開発で採用されているJavaScriptについて、HTML・CSS等を組み合わせ、動的なページの表現技術や知識を学習する。プログラム作成課題を解く中で、要求文書や画面レイアウトからプログラムによる問題解決力を育成する。発展内容として、レスポンシブデザインやjQueryやBootstrapを学ぶ。								
到達目標								
JavaScriptを用いたDOM操作やレイアウト、jQueryの呼出処理、Vue.jsの基本操作ができるようになること。								
授業計画								
授業項目・内容		時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)					
HTML、CSSの発展(レスポンシブデザイン・メディアクエリの利用)		1	演習課題や教科書でおさらいをする。					
Chrome(ブラウザ)開発ツールの利用		3	開発者ツールを使ってデバッグやブレイクポイントを使用する。					
JavaScriptのプログラム課題		4	演習課題や教科書でおさらいをする。					
Chapter8 スライドショーの作成		2	教科書をもとに、各章の説明と教科書演習を行ったのち、課題の実習を行う。					
Chapter9 jQuery		3						
jQueryの基本構文、プラグインの利用、WebAPIの呼び出し		5						
jQueryのプログラム課題		2						
科目試験		2	プログラム作成による実技テストを行う。					
Bootstrapの導入		2	課題の説明と演習を行う。					
Bootstrapのレイアウト、フォームレイアウト		5						
Vue.jsの基本		6						
Vue.js(Javascriptコンポーネントの利用)		5						
合計		40						
時間外学習について								
教科書の各章毎に該当範囲を事前に読んでおくこと。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。課題が終わらない場合は、授業時間外で完成させること。								
成績評価の方法及び評価割合について								
課題のプログラムはエラーが無く、正常動作するものを評価する。課題の出来を25%、科目試験を50%、出席及び授業態度を25%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。								
その他(科目と実務経験との関連性について)								
Webシステム開発業務で経験した内容をもとに、HTML・CSSを使用したWebコンテンツの作り方、ブラウザ(Google Chrome)を用いたJavaScriptの検証方法などについて指導する。								

科目名	Pythonプログラミング I		担当教員名	馬場 清		□ 実務経験					
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)		学科	学年	2	単位数(時間数)	1単位(30時間)				
実施時期	5月	～	7月	授業形態	講義	演習	○	実習	△	実技	○は主、△は併用
教科書 及び参考書	ゼロからわかる Python超入門(技術評論社)										
授業の概要とねらい											
近年、AIやデータ分析、IoTなどの分野で最も利用が増加しているプログラミング言語の1つであるPythonの基本的な構文を習得する。本授業ではまずPythonの基本的な構文を一通り習得し、次のステップで目標とするPython3エンジニア認定基礎試験に向けての基礎を固める。											
到達目標											
プログラミング言語Pythonの構文をしっかりと身につけ、自分で基本的なプログラミングができるようになることを目指す。											
授業計画											
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)							
基本のデータの種類・演算子・変数⇒課題1			2	単元終了ごとに課題を出し、学生の理解度を確認しながら、授業を展開していく。 なお、課題はすべて提出すること。							
条件を表す演算子・条件によって命令を変更・複数の条件を組み合わせ⇒課題2			2								
リスト・タプル・辞書セット⇒課題3			3								
決まった回数繰り返し・終わりになるまで繰り返し⇒課題4			2								
関数の作り方と使い方・関数の引数と戻り値⇒課題5			3								
オブジェクト指向・クラス⇒課題6			3								
モジュールとパッケージ⇒課題7			3								
日時に関するモジュール・乱数を作るモジュール・外部ライブラリ⇒課題8			3								
ファイルからデータの読み込みと書き込み⇒課題9			3								
正規表現・ファイル名を検索⇒課題10			3								
例外・関数内部で例外処理・関数を呼び出した側で例外処理⇒課題11			3								
合 計			30								
時間外学習について											
その日学んだ内容を自宅でしっかりと復習しておくこと。また、単元終了ごとに課題を出す。課題が時間内に終わらない場合は、放課後または自宅で課題を行うこと。											
成績評価の方法及び評価割合について											
出席状況・授業に取り組む姿勢・課題で総合的に評価する。なお、課題はすべて提出すること。1つでも未提出があれば、評価はしない。出席状況・授業に取り組む姿勢を10%、課題を90%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。											
その他(科目と実務経験との関連性について)											

科目名	Webアプリ開発		担当教員名	勝河 祥		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験					
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)		学科	2		単位数(時間数)		2単位(80時間)			
実施時期	5月	～	9月	授業形態	講義	△	演習	実習	○	実技	○は主、△は併用
教科書 及び参考書	詳細! PHP8+MySQL 入門ノート(ソーテック社)										
授業の概要とねらい											
サーバでの処理は様々なシステムやアプリを作成する際に必要となる知識である。本科目ではPHPを使った実習を通じて学び、クライアント側でなくサーバ側の処理について理解すること、セッションとクッキーについて理解を深めることを目的とする。また、データベースとの連携についても実習を通じて理解することで、より実用的なシステムやアプリの作成方法についても学ぶ。授業の後半は実際にグループでWebアプリの開発を行い、企画や設計も含めた開発の流れについても実践的に学ぶ。											
到達目標											
サーバの役割について理解し、PHP等を用いてデータベースと連携したWebアプリを開発することができるようになる。											
授業計画											
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)							
概要説明 (Webアプリとは)			1	授業概要とWebアプリについて利用シーン等の説明する。							
環境構築 (Chapter1)			3	PHP環境、XAMPPのインストールを行う。エディタは、Visual Studio Codeを使用する。							
PHP の基本 (Chapter 1～3)			2	プログラミング言語の違いと、PHPの記述方法を抑えながら教科書をベースに演習を行う。							
PHP でのデータ操作とプログラミング (Chapter 4～7)			3								
Webページの作成 (Chapter 8～11)			10	教科書をベースに実習形式でWebアプリについて理解する。実習により完成した成果物はChapter10をメインとする。							
PHPとMySQL (Chapter 12～13)			10								
グループ制作説明・グループ分け			1								
グループ制作 企画			4	グループでWebアプリの開発を行う。開発においては、企画・設計から開発まで全て学生主導で行い、随時指導を行う。個人の役割や作業内容が明確になるよう、スケジュールを各班必ず立ててもらい、職員に初動・中間報告等をするように指導する。							
グループ制作 設計			6								
グループ制作 開発			30								
グループ制作 プレゼンテーション準備			5								
グループ制作 成果発表			4	パワーポイントを用いた発表およびデモを行う。1グループ10分程度。							
まとめ・総括			1	授業の総括。							
合計			80								
時間外学習について											
各時間の講義や演習内容について不明な点を各自復習し理解する。また、各授業において行う実習が時間内に終了しなかった場合は次の授業までに作成を行う。グループ制作において作業が遅れている場合は、授業時間外に作業を進めておくこと。											
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について											
グループ制作の成果物の評価を70%、授業中の取り組む姿勢を30%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は評価点が90点以上ならばS、80点以上ならばA、70点以上ならばB、60点以上ならばCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。また、グループ制作においては成果物の完成度だけでなく、各個人の担当や貢献を作業記録より判断し、評価に加える。											
その他(科目と実務経験との関連性について)											
自身のwebアプリの開発経験をもとに、開発するために必要な知識や技術について指導する。また、この技術がどのような仕事をするときに役立つか、どのような開発で使ってきたかを自身の体験談を通じて伝え、技術の必要性を理解してもらう。											

科目名	プロジェクト開発実習		担当教員名	丸尾 健悟・吉武 凌我		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験					
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)		学科	学年	2	単位数(時間数)	2単位(70時間)				
実施時期	5月	～	7月	授業形態	講義	演習	実習	<input type="checkbox"/>	実技	<input type="checkbox"/>	○は主、△は併用
教科書及び参考書	なし										
授業の概要とねらい											
「システム開発」におけるプロジェクトの仕事の流れを理解し、実習の中で実践することで、その大切なポイントを体得する。グループ単位で開発業務を実際に行うことで、システム開発の流れを深く理解する。ウォーターフォールタイプで開発を進める。その中で、スケジュール管理やソースコード管理も含めて行ってもらう。また、システム開発は、プロジェクトというチーム作業となるので、チーム内でのコミュニケーションがとても重要であることも理解する。											
到達目標											
チーム内でソースコードの共有ができること。問題点の共有ができること。班内および教員への報告・連絡・相談ができるようになること。											
授業計画											
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)							
システム開発演習			1	授業のオリエンテーションと流れの説明をする。							
要件定義書作成			3	システムの概要と要件を説明する。							
環境構築			5	実習課題は、「本屋定期購読者管理システム」とする。仕様書については、教材として準備されているものを使用する。尚、仕様書には不足部分があるので、仕様書作成段階で調査や教員へのヒアリングを行うことで不足部分を追記していくことで仕様書を完成させる。開発はグループで役割分担を決めて取り組む。班長・副班長の2名のリーダーを中心に工程を進める。工程の進捗管理もグループで行う。尚、各工程毎に進捗状況の報告をしてもらう。グループ内でのコミュニケーションの大切さを理解してもらう。							
技術調査			2								
基本設計書作成・スケジュール作成			6								
プログラミング			30								
テスト仕様書作成			2								
ソースコードレビュー			2								
テスト実施・不具合管理・バグ改修			8								
マニュアル作成			2								
パワーポイント作成			6								
成果物発表会			3								
合計			70								
時間外学習について											
ドキュメント類・ソースコードについては期日までに提出すること。ドキュメント類に不備部分がある場合、システムが動作しない場合は、授業時間外で対応すること。											
成績評価の方法及び評価割合について											
課題はエラーが無く、正常動作するものを評価する。課題の出来を50%、発表内容を25%、ドキュメント内容を25%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。											
その他(科目と実務経験との関連性について)											
システム開発業務で、プロジェクトマネージャ・システムエンジニアとして、設計・メンバーの進捗管理・作業サポート・実装を行った経験から、システム開発の進め方の手順、ソースコードの共有方法、開発作業項目について指導する。											

科目名	情報処理試験総合演習Ⅱ			担当教員名	木村 宗裕・森崎 真由美 丸尾 健悟・吉武 凌我・馬場 清			□ 実務経験		
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)		学科	学年	2	単位数(時間数)	11単位(230時間)			
実施時期	4月	～	10月	授業形態	講義	△	演習	○	実習	
教科書 及び参考書	適宜必要な科目のプリントを配布する									
授業の概要とねらい										
情報処理の国家試験は自分の知識を証明することができる重要な資格である。本科目は模擬試験と解説を通じて情報処理の知識を身に着けるとともに、各種の情報処理国家試験の合格を目指す。なお、本科目は年間を通じて行われるため、受験する試験については適切な時期に都度決定する。										
到達目標										
受験対象として設定した資格試験の合格を目標とする。										
授業計画										
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)				
演習問題					18	演習問題は各分野の問題を解き、解説を行う。 模擬試験については問題・自己採点までを3時間、 解説を3時間で実施する。解説では模擬試験の解説 及び関連知識についての講義も行う。 試験後は必ずやり直しレポートの提出を求める。 また、模擬試験を実施しない日、および週末には自 宅学習用の課題を出題し、その提出も求める。				
模擬試験1・自己採点・解説					6					
模擬試験2・自己採点・解説					6					
演習問題					18					
模擬試験3・自己採点・解説					6					
模擬試験4・自己採点・解説					6					
演習問題					18					
模擬試験5・自己採点・解説					6					
模擬試験6・自己採点・解説					6					
演習問題					18					
模擬試験7・自己採点・解説					6					
模擬試験8・自己採点・解説					6					
演習問題					38					
模擬試験9・自己採点・解説					6					
模擬試験10・自己採点・解説					6					
演習問題					18					
模擬試験11・自己採点・解説					6					
模擬試験12・自己採点・解説					6					
演習問題					18					
模擬試験13・自己採点・解説					6					
模擬試験14・自己採点・解説					6					
合 計					230					
時間外学習について										
模擬試験については必ずやり直しをし、レポートを担当教員へ提出をすること。また、授業後に課題を配布された場合は必ず指定された期日までにやり遂げたい提出を行うこと。										
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について										
本試験の結果の平均により100%評価を行う。その際に受験した資格の難易度についても考慮したうえで評価点(100点満点)を算出する。評価は評価点が90点以上ならばS、80点以上ならばA、70点以上ならばB、60点以上ならばCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものはD(不可)とする。										
その他(科目と実務経験との関連性について)										

科目名	キャリアリテラシー			担当教員名	森崎 真由美・丸尾 健悟 吉武 凌我・工藤 マリ 永樂 仁八			<input type="checkbox"/> 実務経験
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)	学科	学年	2	単位数(時間数)	1単位(20時間)		
実施時期	5月～2月	授業形態	講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="radio"/>	実習	<input type="radio"/>
教科書 及び参考書	必要に応じて適宜プリントを配布する							
授業の概要とねらい								
<ul style="list-style-type: none"> 自分の人生計画について考える機会とする。 社会人としての「働く意義」について考える。 就活への準備とその具体的な取り組みについて考える。 自分について考え「自己分析」をして、「自己PR」を確認する。 就活に必要な「履歴書」を作成し、提出する。 				<ul style="list-style-type: none"> 作文を課題として完成させ、提出する。個別の添削指導する。 先輩の就職試験の結果をもとに、面接試験の研究をする。 就職試験への具体的な対策を各自研究する。 卒業後の社会人として必要なマナー等について研究する。 				
到達目標								
就職活動について理解すること。就職活動に必要な書類を理解し、作成できること。就職試験に必要な知識を修得すること。社会人としてのマナーを理解し、実践できること。								
授業計画								
授業項目・内容	時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)						
オリエンテーション	1	オリエンテーション・授業展開・その他 キャリア教育は就活対策、本校の就活スケジュール、毎時間の課題 採用試験について 求人票、書類提出、説明会 採用試験(1次:筆記試験、適性、SPI、専門、2次:面接)						
キャリア時代におけるキャリア教育とは 若者の現状	1	キャリア教育の背景、キャリア教育の定義、キャリア教育と進路指導 就職内定率、就職率(大学、高校、専門学校)の推移、フリーターとニートについて、離職者の理由と問題点、フリーターの現状、雇用形態についてその他						
働く意義について 自分の将来設計とは	1	社会の発展、職業とは、働くことの意義、仕事の3要素 就職試験対策「働くとは」、就職試験対策「10年後の私」						
社会の動きを知る	1	日本経済の諸問題 経済用語のまとめ						
自己分析とは	1	就活の全体像、自分を知る、仕事を知る、自分のいる環境を知る、自分の長所(強み)、短所(弱み)、自分の特技						
自己PRとは	1	過去をふりかえる、プロフィールの記入法、実際に記入する、自己PRを作成する。						
自己PRのまとめと発表	2	自己PRまとめ、自己紹介と自己PRの実施(1人3分 3分間スピーチ) 効果のある話し方						
業種と職種について	1	業種とは、職種とは、本学の求人票について(求人票の見方)						
筆記試験演習	1	筆記試験の演習として一般常識試験を行う						
科目試験	1	筆記試験の一部と課題内容をもとに科目試験を実施する						
作文指導	3	3段階に分けて個別指導、課題について作文し、提出・添削する						
面接指導	3	具体的な展開と実践						
履歴書の作成	2	本校指定の所定用紙を使う						
就職試験の研究	1	就職内定者報告会						
合計	20							
時間外学習について								
作文課題を仕上げる。								
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について								
科目試験の結果を30%、履歴書作成・面接練習の評価を30%、作文課題の評価を30%、授業態度を10%で評価し評価点(100点満点)を算出する。評価は評価点が90点以上ならばS、80点以上ならばA、70点以上ならばB、60点以上ならばCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。								
その他(科目と実務経験との関連性について)								

科目名	ビジネスアイデア		担当教員名	馬場 清		<input type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)	学科	学年	2	単位数(時間数)	1単位(20時間)	
実施時期	5月～1月	授業形態	講義	演習	<input type="checkbox"/>	実習	<input type="checkbox"/>
教科書 及び参考書	なし						
授業の概要とねらい							
AIを活用した『創造性』豊かな発想力を育むとともに社会に出てから必要とされるプレゼンテーション能力を高めることを目的とし、AIを利用したビジネスアイデアを考える。そのアイデアをハイパーネットワーク社会研究所主催で毎年開催されるAIビジネスアイデアコンテスト「Oita AI Challenge」に応募する。							
到達目標							
AIを活用した斬新なアイデアを生み出すことと、プレゼンテーション能力を高めることを目標とする。その成果の場としてAIビジネスアイデアコンテスト「Oita AI Challenge」に応募し、一次審査を通過し、本発表へ出場することを旨とする。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
AIロボット体験(ラズベリーパイ)			2	まずはAIがどのように活用されているかを実際に体験してもらう。 次にAIを利用してどのようなビジネスアイデアが出されたかを動画で視聴してもらい、感想を書いてもらう。 最後に数名でグループを作ってアイデアを出し合い、プレゼンを行う。プレゼン資料はハイパーネットワーク社会研究所に提出し、AIビジネスアイデアコンテスト「Oita AI Challenge」の本選に出場することを旨とする。			
JetsonNanoAI体験			2				
AIビジネスコンテスト1視聴・感想			1				
AIビジネスコンテスト2視聴・感想			1				
AIビジネスコンテスト3視聴・感想			1				
AIビジネスコンテスト4視聴・感想			1				
グループ決定・アイデア調査			4				
テーマ決定			1				
プレゼン資料収集・作成			4				
AIアイデアプレゼン学内発表			2				
本発表			1				
合 計			20				
時間外学習について							
プレゼンの内容で評価を行うため、プレゼン発表に間に合うように授業の時間外でしっかりと準備をすること。							
成績評価の方法及び評価割合について							
出席状況・授業に取り組む姿勢・プレゼンの内容で総合的に評価する。出席状況・授業に取り組む姿勢を10%、プレゼンの内容を全体の90%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	システム開発総合実習			担当教員名	丸尾 健悟・馬場 清 勝河 祥・本田 克己		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)		学科	学年	2	単位数(時間数)	6単位(180時間)
実施時期	10月	～	3月	授業形態	講義	演習	実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/>
教科書 及び参考書	なし						
授業の概要とねらい							
職業実践専門課程の一環として、現場で活躍している講師の方々の指導を受けて、企画・開発・スケジュール管理からテストまでの全ての工程を自分達で行うことでシステム開発の流れを体験し、実践力をつけてもらうことを目的とする。尚、開発はグループ単位で行い、テーマ発表時と開発終了時に講師に参加してもらいプレゼンテーションを行う。開発テーマは、データベース(RDB)を使用し、課題解決企画または既存企画に独自性を持たせたものであることを条件とする。							
到達目標							
システムを完成させることで、開発での必要となる様々な管理能力を身に着けること。また、分かりやすいプレゼンテーションができるようになること。							
授業計画							
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
テーマ選定・企画				4	開発するテーマを選定する。テーマ発表時に、パワーポイントを使ってプレゼンを行う。		
要求・現状分析				4			
技術調査				5	プレゼンでは、テーマについての説明とシステム概要、グループメンバーの個々の役割を発表する。		
要件定義書作成				8			
企画資料(テーマ発表スライド作成)準備				10	質疑応答を受け、内容を精査したうえで、要件定義書および基本設計書に反映させる。		
テーマ発表(プレゼンテーションを行う)				4			
基本設計作成				10	設計書を作成したのち、開発(プログラミング)を行う。		
画面設計書作成				10			
開発(プログラミング)				28	開発時には評価の1つとして報告書を記入・提出してもらう。システム全体について、開発途中の進捗状況と今後の予定を踏まえて、中間報告としてパワーポイントを使ったプレゼンを行う。		
中間報告資料(中間発表スライド作成)準備				13			
中間発表				4	残作業と作業時間を踏まえ、スケジュールを再確認する。テストを実施し、バグ改修を行う。		
テスト仕様書作成				5			
開発(プログラミング)				28	成果物はパワーポイントとシステムデモで発表を行う。		
テスト実施・不具合管理				10			
バグ改修				13	作りたいものは明確であるか、またそれがどの程度実現できているか、良いものを作ろうとした工夫はみられるかなど、完成度だけでなく、取り組む姿勢も評価する。		
発表用資料(成果物発表スライド作成)準備				10			
発表練習				10			
成果物発表会(プレゼンテーションを行う)				4			
合計				180			
時間外学習について							
ドキュメント類・ソースコードについては期日までに提出すること。 ドキュメント類に不備部分がある場合、システムが動かない場合は、授業時間外で完成させること。							
成績評価の方法及び評価割合について							
課題のプログラムはエラーが無く、正常動作するものを評価する。課題の出来を50%、発表内容を25%、ドキュメント内容を25%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
システム開発業務で経験した内容をもとに、立案・開発・スケジュール管理・テスト手法について指導する。							

科目名	PythonプログラミングⅡ		担当教員名	馬場 清		□ 実務経験														
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)		学科		学年	2														
実施時期	10 月 ~ 12 月	授業形態	講義		演習	○	実習	△	実技		○は主、△は併用									
教科書 及び参考書	なし																			
授業の概要とねらい																				
PythonプログラミングⅠで一通り基本構文を習得した後、次のステップとしてPython3エンジニア認定基礎試験に挑戦する。資格試験の勉強を通して、新しい構文を習得するとともに、今まで触れてこなかったところまで踏み込んで学習さらに理解を深める。																				
到達目標																				
プログラミング言語Pythonの構文をしっかりと身につけ、自分でプログラミングできるようになるとともに、Python3エンジニア認定基礎試験合格を目指す。																				
授業計画																				
授業項目・内容		時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)																	
リストの集計や並び替え・その他⇒演習問題		2	演習問題を解きながら、分からないところはパソコン上で確認しながら理解を深める。また、一人一人の理解度を確認しながら、授業を展開していく。																	
ラムダ式・その他⇒演習問題		2																		
変数のスコープ⇒演習問題		2																		
内包表記・ジェネレータ⇒演習問題		2																		
クラスの継承⇒演習問題		2																		
counter dict応用 lambda⇒演習問題		3																		
Python演習問題 食欲をそそってみようか		1																		
Python演習問題 Pythonインタプリタの使い方		1																		
Python演習問題 気楽な入門編		1																		
Python演習問題 制御構造ツール		2																		
Python演習問題 データ構造		2																		
Python演習問題 モジュール		1																		
Python演習問題 入出力		1																		
Python演習問題 エラーと例外		1																		
Python演習問題 クラス		1																		
Python演習問題 標準ライブラリめぐり		1																		
Python演習問題 仮想環境とパッケージ		1																		
Python演習問題 その他		4																		
Python 3 エンジニア認定基礎模擬試験1 及び 解説		3										12月下旬にPython3エンジニア認定基礎試験を受験する。Python3エンジニア認定基礎試験は正答率70%(28問)以上で合格となるため、模擬試験では最低8割を目標にする。目標に達しない学生については補習を行う。								
Python 3 エンジニア認定基礎模擬試験2 及び 解説		3																		
Python 3 エンジニア認定基礎模擬試験3 及び 解説		3																		
Python 3 エンジニア認定基礎模擬試験4 及び 解説		3																		
Python 3 エンジニア認定基礎模擬試験5 及び 解説		3																		
Python 3 エンジニア認定基礎模擬試験6 及び 解説		3																		
Python 3 エンジニア認定基礎模擬試験7 及び 解説		3																		
Python 3 エンジニア認定基礎模擬試験8 及び 解説		3																		
Python 3 エンジニア認定基礎模擬試験9 及び 解説		3																		
Python 3 エンジニア認定基礎模擬試験10 及び 解説		3																		
合 計		60																		
時間外学習について																				
その日解いた問題を自宅できちんと復習しておくこと。また、模擬試験で合格点に達しないものは放課後補習を行う。																				
成績評価の方法及び評価割合について																				
出席状況・授業に取り組む姿勢・試験の結果で総合的に評価する。出席状況・授業に取り組む姿勢を10%、本試験結果を90%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。本試験が受けられなかった場合は、模擬試験の結果を考慮して評価する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものはD(不可)とする。																				
その他(科目と実務経験との関連性について)																				

科目名	Swift実習		担当教員名	勝河 祥		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)		学科	2	単位数(時間数)	2単位(66時間)	
実施時期	12月	～	3月	授業形態	講義	演習	実習
教科書 及び参考書	詳細！SwiftUI iPhoneアプリ開発入門ノート[2022] iOS 16+Xcode 14対応(ソーテック社)						
授業の概要とねらい							
スマートフォンアプリ開発を行うエンジニアを目指すのであれば、iPhone/Androidどちらの知識も必要となってくる。iOSアプリは近年需要が高いこともあり、この授業ではXcodeを使ったMacでの基本的なアプリ開発方法を学習する。SwiftUIを使用しiPhoneアプリを作成することでSwift言語の基本文法を身に着ける。							
到達目標							
Xcodeの基本的な使い方とアプリ開発方法の習得。SwiftUIによるモバイルアプリを開発できる技術を身に着ける。							
授業計画							
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
開発環境の構築				3	Xcodeのインストール、iOSアプリケーション開発環境の構築。 Figmaのアカウント確認、基本的な使い方。		
Chapter 1 iPhoneアプリを作ってみよう/Playgroundの活用				3	Xcodeの基礎知識、シミュレータや実機での試し方、Playgroundについて学ぶ。 Swift言語の 変数、型、繰り返しを確認。 MacOS開発で使用されているObjective-C、Foundation、UIKitについて、簡単に説明する。		
Chapter 2 テキスト表示で学ぶ基本操作とレイアウト調整				2	テキスト表示やレイアウト調整を通してSwiftUIの概要を学ぶ。		
Chapter 3 イメージと図形の表示/配置/画像効果				3	写真や図形の表示と画像効果、SFシンボル機能を学ぶ。		
Chapter 4 リスト表示とナビゲーションリンク				3	リスト表示やナビゲーションリンクの作成する。Swift言語の 配列、構造体とユーザー定義関数を学ぶ。		
Chapter 5 ボタンやテキストフィールドなどのユーザー入力を使う部品				4	ボタン、スイッチ、テキストフィールドなどのUI部品を実装する。Swift言語のSwiftシンタックスや@keywordオプション、条件分岐や例外処理、よく使う関数などを学ぶ。		
Chapter 6 アラート、シート、スクロール、グリッドレイアウト、タブを使う				2	サブビュー、シート、グリッドレイアウト、複数データの取り扱いを学ぶ。		
Chapter 7 バインディングとオブジェクトの共有				2	バインディングとオブジェクトの共有を確認する。Swift言語の クラス定義 を学ぶ。		
Chapter 8 SwiftUIのMap()で地図表示				3	MapKitを使った地図表示をシミュレータや実機で確認する。		
Chapter 9 async/awaitを使った非同期処理				2	サンプルファイルを使用し非同期動作を確認する。		
アプリ制作(アプリ概要、目的、技術調査、スケジュール作成)				5	学生自身が欲しいと考えるアプリを制作する。制作は個人で行い、画面は最低2画面あるアプリとする。制作に入る前に実現可能か教員に相談をすること。		
画面設計				6	Figma を用いた画面設計を行う。		
開発、作成、テスト				26	アプリ概要、画面設計に基づいたアプリ制作を行う。		
アプリデモ発表				2	シミュレータまたは実機を用いた動作デモ発表を行う。		
合計				66			
時間外学習について							
各時間の講義や教科書の演習内容について不明な点を各自復習し理解する。また、アプリの開発が遅れている場合、スケジュール通りに進むように作業を行う。							
成績評価の方法及び評価割合について							
課題及び成果物の出来を50%、プレゼンテーションの内容を25%、授業中の姿勢(出席状況や課題への取り組み)を25%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。なお、グループ制作においては成果物の完成度だけでなく、各個人の担当や貢献を作業記録より判断し、評価点に加える。評価は評価点が90点以上ならばS、80点以上ならばA、70点以上ならばB、60点以上ならばCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
iPhoneアプリ開発での基礎的なXcodeの使用方法は、教科書の内容だけでは不十分な点がある。そこで、iPhoneアプリの開発現場で得られた自身の経験をもとに不足部分を補いながら実践的な知識の指導を行う。							

科目名	医療事務基礎		担当教員名	油布 真奈		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)	学科	学年	2		単位数(時間数)	6単位(110時間)
実施時期	4月～9月	授業形態	講義	○	演習	△	実習
教科書 及び参考書	医科 医療事務講座マスターテキスト2,3 診療報酬の算定(上)(下) 診療点数早見表 2024年版 資料ブック 薬価表						
授業の概要とねらい							
早見表を引くことができ、各算定料の意味と点数・加算を知り、医療事務員としてどの診療科に勤めても実務で通用する基礎的技術を身に付ける。							
到達目標							
医療事務の基礎的知識を身に付け、記載要領に則り、外来レセプトが自分の力で作成できること。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
請求事務概論	医療機関とは～保険の仕組み、保険の種類		1	年齢と時間帯で医療費の算定が変わることを知る。			
	窓口業務、保険請求		1				
	カルテ上書き		1	外来、入院のレセプトを作成するなかで、特に算定回数が多い初再診から処置までの各項目の説明を行い、記載方法を学ぶ。			
初診料	時間外の加算、時間内の加算の説明とグラフの作成		2				
	算定練習、例題のプリント		2	また、各項目ごとに算定練習をプリントを使って行う。 特に投薬料の算定については「五捨五超入」方法を学び、繰り返し行う。			
再診料	再診料、外来管理加算、電話再診		1				
	外来診療料、例題プリント、初再診の仕上げ		2	復習として各区分終了後、課題レセプトを配布する。 課題レセプト作成後は提出をすること。			
医学管理	特定疾患療養管理料、その他管理料		1				
	診療情報、薬剤情報等 例題プリント		2	復習として各区分終了後、課題レセプトを配布する。 課題レセプト作成後は提出をすること。			
投薬料	薬剤計算		1				
	内服・頓服・外用薬の違い		2	復習として各区分終了後、課題レセプトを配布する。 課題レセプト作成後は提出をすること。			
	それぞれの計算練習		2				
	調剤料		2	復習として各区分終了後、課題レセプトを配布する。 課題レセプト作成後は提出をすること。			
	処方料、調基、院外処方		2				
	投薬の外来・入院の計算練習		5	復習として各区分終了後、課題レセプトを配布する。 課題レセプト作成後は提出をすること。			
注射料	注射料		2				
	筋注、静注、手技料の加算		2	復習として各区分終了後、課題レセプトを配布する。 課題レセプト作成後は提出をすること。			
	算定練習		5				
	点滴注射、その他の注射		2	復習として各区分終了後、課題レセプトを配布する。 課題レセプト作成後は提出をすること。			
	算定練習		5				
処置料	処置、一般処置、		2	復習として各区分終了後、課題レセプトを配布する。 課題レセプト作成後は提出をすること。			
	算定練習		2				
	救急処置～ギブス		2	復習として各区分終了後、課題レセプトを配布する。 課題レセプト作成後は提出をすること。			
	算定練習		3				
演習問題	診察料～処置料の総合演習		3	復習として各区分終了後、課題レセプトを配布する。 課題レセプト作成後は提出をすること。			
手術	手術料の説明		5				
	算定練習		6	復習として各区分終了後、課題レセプトを配布する。 課題レセプト作成後は提出をすること。			
麻酔	麻酔の説明		5				
	脊椎麻酔～硬膜外麻酔		3	復習として各区分終了後、課題レセプトを配布する。 課題レセプト作成後は提出をすること。			
	閉麻の説明		5				
	算定練習		5	復習として各区分終了後、課題レセプトを配布する。 課題レセプト作成後は提出をすること。			
検査	検体検査説明		2				
	算定練習		4	復習として各区分終了後、課題レセプトを配布する。 課題レセプト作成後は提出をすること。			
	生体検査・病理検査説明		2				
	算定練習		5	復習として各区分終了後、課題レセプトを配布する。 課題レセプト作成後は提出をすること。			
画像診断	単純撮影		2				
	造影剤使用撮影・特殊撮影		2	復習として各区分終了後、課題レセプトを配布する。 課題レセプト作成後は提出をすること。			
	算定練習		5				
	シンテグラム、CT、MR		2	復習として各区分終了後、課題レセプトを配布する。 課題レセプト作成後は提出をすること。			
	算定練習		2				
合計			110				
時間外学習について							
課題レセプトを作成し、提出する。							
成績評価の方法及び評価割合について							
定期試験の結果80%、出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上かつ出席率100%をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
県内の様々な医療機関で医療事務員としてレセプト請求業務に携わる実務経験をもとに、レセプト請求の正確さの重要性を理解してもらう。また「現場の声」や「経験したレセプト請求の失敗例」を交えた指導を行い、施設規模によるレセプト請求業務の違いも教える。							

科目名	医療事務演習			担当教員名	油布 真奈		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験						
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)		学科	学年	2	単位数(時間数)	5単位(100時間)						
実施時期	10月	～	3月	授業形態	講義	△	演習	○	実習		実技		○は主、△は併用
教科書 及び参考書	医科 医療事務講座マスターテキスト2,3 診療報酬の算定(上)(下) 診療点数早見表2024年版 資料ブック 薬価表												
授業の概要とねらい													
各算定料の意味と点数・加算を知り、それらを応用して、外来レセプト及び入院レセプトをスムーズに作成する技術を身に付ける。													
到達目標													
医療事務技能認定試験に合格する。													
授業計画													
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)								
入院料	入院料			3	入院料までの各項目の説明を行い、レセプトの記載方法を学ぶ。								
	病院・診療所			2									
	算定練習			4									
レセプト演習	外来レセプト作成			10	レセプトを外来は60分、入院は90分で作成できるように練習を行う。								
	入院レセプト作成			22									
検定試験				4	レセプトを外来は60分、入院は90分で作成できるように練習を行う。								
レセプト演習	外来レセプト作成			25									
	入院レセプト作成			30									
	合計			100	外来と入院レセプトを時間内に体裁よく作成する。								
時間外学習について													
課題レセプトを作成し、提出する。													
成績評価の方法及び評価割合について													
検定試験の結果80%、出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上かつ出席率100%をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。													
その他(科目と実務経験との関連性について)													
県内の様々な医療機関で医療事務員としてレセプト請求業務に携わる実務経験をもとに、レセプト請求の正確さの重要性を理解してもらう。また「現場の声」や「経験したレセプト請求の失敗例」を交えた指導を行い、施設規模によるレセプト請求業務の違いも教える。													

科目名	医学医療		担当教員名	中島 千春		□ 実務経験	
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)	学科	学年	2	単位数(時間数)	3単位(60時間)	
実施時期	4月～3月	授業形態	講義	○	演習	△	実習
教科書及び参考書	オリジナル「重要ポイント集」						
授業の概要とねらい							
<p>「医療情報技師能力検定」は、3つの分野に分かれており、その中の「医学医療分野」を学ぶ。 翌年に受験する「医療情報技師能力検定」に合格するため、用語とその意味を重点的に学ぶ。</p>							
到達目標							
医療情報技師能力検定(医学医療分野)で出題される、用語とその意味が分かること。							
授業計画							
授業項目・内容		時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)				
・社会における医療の役割		1	<p>「医療情報第6版 医学医療編」テキストをまとめた、オリジナルの「重要ポイント集」を使用する。</p> <p>項目ごとに用語、意味、関連事項を解説する。</p>				
・医の倫理		2					
・医療専門職の責務		2					
・地域医療連携		2					
・病院管理部門		2					
・医療の外部評価		2					
・EBMと診療ガイドライン		1					
臨床医学①		2					
臨床医学③		2					
・医薬品		2					
・先進医学		2					
・臨床検査①		2					
・臨床検査③		2					
・治療		2					
・医療記録の作成と管理		2					
・医療記録の構成要素		2					
・医療に関わる諸記録の取扱い		2					
・医療記録の標準コード		2					
・医療関係記録の保存管理		2					
・医学研究の基礎		2	<p>「医療情報第6版 医学医療編」テキストをまとめた、オリジナルの「重要ポイント集」を使う。</p> <p>項目ごとに用語、意味、関連事項を解説する。</p>				
・医学研究の進め方		2					
・医学・医療統計の基礎		2					
・推定と検定		2					
・臨床データベースの実例		2					
練習問題①		4					
練習問題②		4					
練習問題③		4					
練習問題④		4					
合 計		60					
時間外学習について							
重要ポイント集とノートを見て、復習をすること。							
成績評価の方法及び評価割合について							
定期試験80%、出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たさない場合はD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	医療情報処理		担当教員名	森崎 真由美		<input type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)	学科	学年	2	単位数(時間数)	2単位(40時間)	
実施時期	4月～3月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習
教科書 及び参考書	医療情報技師能力認定試験 過去問題						
授業の概要とねらい							
医療情報技師能力検定試験の情報処理科目の過去問題を用いて、医療情報技師に必要な基礎的な情報処理の知識について学ぶ。							
到達目標							
医療情報技師に必要な情報処理についての知識を深め、理解できるようになる。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
過去問題演習①+確認テスト			5	過去問題は問題を10問づつ解き解説(全50問を3時間)確認テスト(1時間)、やり直し(1時間)の計5時間を1セットとし、5回実施する。 確認テストは70点以上を合格とし、70点未満は追試験を実施する。			
過去問題演習②+確認テスト			5				
過去問題演習③+確認テスト			5				
過去問題演習④+確認テスト			5				
過去問題演習⑤+確認テスト			5				
模擬試験(全5回)			5	模擬試験は70点以上を合格とし、不合格の場合は、後日、追試験を実施する。			
医療情報技師能力検定試験							
検定試験問題解説			3	次回の医療情報技師試験に向けて知識の習熟度の向上を図るため不得手部分を中心に解説を行い、確認テストを実施する。			
過去問題演習・解説+確認テスト			7				
合 計			40				
時間外学習について							
確認テストおよび模擬試験で70点以上となるように復習をすること。							
成績評価の方法及び評価割合について							
検定試験、模擬試験及び確認テストの結果並びに出席状況による総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	医療情報システム			担当教員名	長尾雄二		□ 実務経験		
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)		学科	学年	2	単位数(時間数)	3単位(60時間)		
実施時期	4月	～	3月	授業形態	講義	○	演習	△	
							実習		
							実技		
教科書 及び参考書	過去問題								
授業の概要とねらい									
1年次に学んだ知識を基に医療情報システムの過去問題に取り組む。 過去問題の解答では選択に至った根拠も含め調べ学習を行うことで、病院業務の流れを確認し理解を図る。									
到達目標									
医療情報技師能力検定試験に合格する。									
授業計画									
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
問題 解答・解説					3	医療情報システム科目の対策授業とする。 過去問を使用して調べ学習、解説を行う。			
試験					1				
問題 解答・解説					3				
試験					1				
第1回 練習問題					1	<ul style="list-style-type: none"> ・練習問題 ・練習問題の解答、解説配布 ・同問題再試験 4コマで1回分とする。			
解答・解説					2				
再試験					1				
第2回 練習問題					1				
解答・解説					2				
再試験					1				
第3回 練習問題					1				
解答・解説					2				
再試験					1				
第4回 練習問題					1				
解答・解説					2				
再試験					1				
第5回 練習問題					1				
解答・解説					2				
再試験					1				
医療情報技師能力検定試験					2				
検定試験問題 解答検討会					6	検定試験後に誤答問題について解説・分析する。			
過去問題演習・解説+確認テスト					24	次回の医療情報技師試験に向けて知識の習熟度の向上を図るため不得手部分を中心に学習を行なう。また、記述式確認テストを実施する。			
合 計					60				
時間外学習について									
練習問題および模擬試験の誤答問題の復習をすること。									
成績評価の方法及び評価割合について									
練習問題の再試験(受験分野の平均点)と模擬試験(受験分野の平均点)の80%および出席率20%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものはD(不可)とする。									
その他(科目と実務経験との関連性について)									

科目名	診療報酬知識 I		担当教員名	小田原香織		□ 実務経験	
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)		学科		単位数(時間数)	4単位(70時間)	
実施時期	4月	～	3月	授業形態	講義	○	演習
						△	実習
							実技
教科書 及び参考書	診療点数早見表 医科 医療事務講座 テキスト1「医療保険制度」						
授業の概要とねらい							
病院やクリニック、あるいは薬局の事務スタッフに必須の医療保険制度、診療報酬請求についての知識に加え、点数の算定や診療報酬の算定要件について学習する。							
到達目標							
医療保険制度および診療報酬算定についての知識を学び、身に付けること。また医科 医療事務管理士®技能認定試験の学科試験に合格すること。							
授業計画							
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
医療機関の分類				3	医療事務技能認定試験および診療報酬請求事務能力認定試験の学科問題を用いながら、診療報酬における算定の留意点や医学用語の知識などを詳しく学ぶ。過去、学科問題として出題された文章を診療点数早見表やテキストから探し、線を引く。過去頻繁に出題されているページにはインデックスを貼る。 各分野の復習プリントの問題を解き、提出する。		
医療機関と薬局の関係				3			
医療保障制度の体系、健康保険法、療養担当規則				3			
医療保険のしくみ				3			
75歳未満の医療保険				3			
75歳以上の医療保険				3			
被保険者証とその見方				3			
保険給付のしくみ				5			
公費負担医療制度とその種類				3			
公費負担医療制度のしくみ				3			
生活保護法				3			
難病法・感染症法				3			
労災保険				3			
初診・再診料				3			
医学管理・在宅医療				3			
検査				3			
注射・投薬				4			
処置・手術・麻酔				4			
画像診断				4			
放射線治療・病理診断・リハビリテーション料				4			
入院基本料・入院加算				4			
合計				70			
時間外学習について							
復習プリントを解き、提出する。							
成績評価の方法及び評価割合について							
模擬試験・定期試験の結果60%、授業への参加度、発言、積極性30%、出席率10%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	医療保険制度 I		担当教員名	長尾 雄二		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)	学科	学年	2	単位数(時間数)	2単位(30時間)	
実施時期	4 月 ~ 9 月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習
教科書 及び参考書	病院&クリニック窓口事務必携ハンドブック2024版						
授業の概要とねらい							
日本の公的医療保険制度には、国民健康保険、健康保険、共済組合、後期高齢者医療制度などがある。制度によって仕組みや特徴が異なるため、就職した際に戸惑うことのないように制度の仕組みを理解する。							
到達目標							
医療保険制度を理解し、説明できるようにする。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
公的医療保険制度について			2	記憶の定着化を図るため、随時、確認テストを実施する。			
法別番号について			2				
被保険者証等について			2				
療養の給付について			3				
一部負担金について			2				
高額療養費について			6				
療養費について			4				
その他の給付、留意点について			3				
レセプト作成注意点			1				
レセプト作成			5				
合 計			30				
時間外学習について							
医療機関で必須の知識となるため復習を行うこと。							
成績評価の方法及び評価割合について							
定期試験、確認テストの結果50%、出席率20%及び授業への参加度、発言、積極性30%の評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
保険者として資格・給付業務に携わった経験から医療事務員が業務上、理解すべき医療保険制度の講義を行う。							

科目名	公的保険制度		担当教員名	長尾 雄二		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)	学科	学年	2	単位数(時間数)	1単位(20時間)	
実施時期	10月～3月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習
教科書 及び参考書	病院&クリニック窓口事務必携ハンドブック2024版						
授業の概要とねらい							
医療事務員に必要な知識として医療保険以外にも様々な制度がある。公費負担医療や自賠責請求の知識を学習する。							
到達目標							
公費負担医療や自賠責請求について基礎的理解ができるようにする。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
公費負担医療制度について			6	記憶の定着化を図るため、随時、確認テストを実施する。			
レセプト留意点			1				
レセプト作成			2				
地方単独事業について			6				
レセプト留意点			1				
レセプト作成			2				
自賠責請求について			2				
合 計			20				
時間外学習について							
医療機関で必須の知識となるため復習を行うこと。							
成績評価の方法及び評価割合について							
定期試験、確認テストの結果50%、出席率20%及び授業への参加度、発言、積極性30%の評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
保険者として資格・給付業務に携わった経験から医療事務員が業務上、理解すべき医療保険制度の講義を行う。							

科目名	ビジネス概論		担当教員名	小田原 香織		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験								
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)	学科	学年	2	単位数(時間数)	5単位(75時間)								
実施時期	4月～11月	授業形態	講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="radio"/>	実習	<input type="radio"/>	実技	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	○は主、△は併用		
教科書及び参考書	現役審査員が教える秘書検定2級・3級テキスト&問題集													
授業の概要とねらい														
社会人として期待されるビジネスマナー立ち振る舞いや、働くうえで必要とされるコミュニケーション能力を、講義やロールプレイングを通して理解し、身に付ける。														
到達目標														
文部科学省後援 秘書技能検定 2級に合格する。														
授業計画														
授業項目・内容		時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)											
第4章 必要とされる資質 ①秘書としての心構え		2	教科書に沿って学ぶ。 講義を聞き、ノートにまとめて理解する。											
第4章 必要とされる資質 ②求められる人柄		2												
第4章 必要とされる資質 ③機密保持		2												
第4章 必要とされる資質 ④求められる能力(1)(2)		2												
第5章 職務知識 ①秘書の役割と機能(1)(2)		2												
第5章 職務知識 ②秘書の業務(1)(2)		2												
確認テスト「理論分野」		1												
第2章 技能 ①会議の知識		2												
第2章 技能 ②ビジネス文書について(社内文書/社外文書/社交文書)		4												
第2章 技能 ⑤グラフの書き方		4												
第2章 技能 ⑥受信文書の取り扱い		2												
第2章 技能 ⑦秘扱い文書の取り扱い		2												
第2章 技能 ⑧郵便の知識と通信		2												
第2章 技能 ⑨ファイリング、資料の整理と管理		2												
第2章 技能 ⑩スケジュール管理		3												
第2章 技能 ⑪オフィスのレイアウトと整理		1												
第1章 マナー・接遇 ①敬語/接遇用語		6												
第1章 マナー・接遇 ②人間関係と話し方・聞き方・断り方		2		確認テスト										
第1章 マナー・接遇 ③指示の受け方、報告の仕方		2		確認テストを行う。 確認テストは、「理論(資質・職務知識)分野」、「実技(マナー・技能)分野」とに分けて実施する。 7割以上正解することを目指す。										
第1章 マナー・接遇 ④依頼・説得の仕方、忠告の仕方・受け方		2												
第1章 マナー・接遇 ⑤電話応対/来客応対		2												
第1章 マナー・接遇 ⑥慶事・弔辞のマナー		3												
第1章 マナー・接遇 ⑦贈答・見舞いのマナー		3												
確認テスト「実技分野」		1												
第3章 一般知識 ①企業の基礎知識/経営管理の知識/人事労務の知識		2												
第4章 一般知識 ②企業会計・財務・税務の知識		2	模擬試験・解説											
模擬試験①・解説		3	模擬試験は解答を回収し、採点をして返却する。 70点未満のものに関しては追試を行う。											
模擬試験②・解説		3												
模擬試験③・解説		3												
模擬試験④・解説		3												
模擬試験⑤・解説		3												
検定試験														
合 計		75												
時間外学習について														
教科書で復習をすること。確認テスト・模擬試験で誤った箇所については訂正をし、提出する。														
成績評価の方法及び評価割合について														
確認テスト・定期試験の結果60%、授業への参加度、発言、積極性30%、出席率10%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。														
その他(科目と実務経験との関連性について)														
接客業としてお客様に携わった経験から、社会人が必要とすべきビジネスマナーや接客対応の仕方について、講義やロールプレイングの授業を通じて学生に身に付けてもらう。														

科目名	ケア・コミュニケーション I		担当教員名	油布 真奈		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)	学科	学年	2	単位数(時間数)	3単位(60時間)	
実施時期	11月～3月	授業形態	講義	△	演習	○	実習
教科書及び参考書	医療事務スタッフのためのケア・コミュニケーション						
授業の概要とねらい							
授業を通して、医療現場におけるさまざまな接客対応を模擬体験することで、「医療機関を利用するお客様(患者さま・ご家族・業者など)」と「医療機関で働くスタッフ」とのコミュニケーションの重要性と考え方を学ぶ。							
到達目標							
目的・状況に応じた適切な言動(コミュニケーション)が取れるようになること。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
第1章 医療事務の心構えとマナー			2	①<基礎知識説明> 基礎知識説明では各章で覚えておく必要がある知識やポイントの説明を行う。 対応のステップや表現例を通じて実践的な知識を身に付ける。 ②<ケーススタディ> 事例を通して、相手の気持ちを理解する力や対応の仕方を学習する。 ③<理解度チェックシート> 基本知識説明で学習した知識の理解度を確認する。反復練習することにより、確実な知識を身に付ける。 ④<演習問題> 基本知識説明やケーススタディを通して身に付けた知識や表現力を演習問題を通して総合的に確認する。 各章で①～④を実施する。			
医療現場での接遇・コミュニケーション			2				
身だしなみと第一印象			2				
第2章 好感・安心感を高めるコミュニケーションの基本			2				
非言語メッセージ			2				
言語メッセージ			2				
受容と共感			2				
第3章 電話対応			3				
電話の受け方			2				
電話のかけ方			2				
電話の取次ぎ・伝言			2				
第4章 来客対応			3				
来客対応の基本			2				
お見送りの仕方			2				
第5章 受付・会計窓口での対応			3				
患者さまへの対応の基本			2				
受付の仕方			2				
会計対応の仕方			2				
入退院対応の仕方			2				
第6章 苦情・クレーム対応			3				
苦情・クレーム対応の基本			2				
要求に応えられない場合の心構え			2				
第7章 チーム・コミュニケーション			2				
チーム・コミュニケーションの基本			2				
第8章 患者さまの状況に応じた対応			2				
高齢の患者さま			2				
身体に障がいをもつ患者さま			2				
小児の患者さま			2				
合 計			60				
時間外学習について							
教科書で予習と復習をすること。							
成績評価の方法及び評価割合について							
④<演習問題>および定期試験の結果80%、出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上かつ出席率100%をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
医療事務員として患者対応に携わった経験から、実務に求められるメディカルマナーについて、経験談を活用したロールプレイングなどを行う。							

科目名	Word基礎		担当教員名	中島 千春		<input type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)		学科		学年	2	
実施時期	4月	～	9月	授業形態	講義	△	演習
教科書 及び参考書	コンピュータサービス技能評価試験ワープロ部門 3級 テキスト&問題集						
授業の概要とねらい							
Office ソフトである Wordの利活用法を教科書の演習を通じて学習する。 Wordの機能を使い、正確で迅速なビジネス文書が作成できる。							
到達目標							
コンピュータサービス技能評価試験ワープロ部門 3級に合格する。 ブラインドタッチによる入力ができること。							
授業計画							
授業項目・内容		時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)				
Wordの基本操作説明		1	例題文で、10分間の入力速度を測る。				
入力速度測定		1					
コンピュータサービス技能評価試験ワープロ部門 3級 テキスト&問題集		1	提供データのダウンロード				
第1章	・5分入力テスト	5	ブラインドタッチの説明と練習をする。 テキストに沿って出題範囲を順に作成する。 毎回、入力テストを実施する。				
第2章	・8分入力テスト	1					
第3章	・8分入力テスト	7					
第4章	・10分入力テスト	5					
第5章	・10分入力テスト	1					
練習問題(9回)		9	事前に練習を行った後、試験をする。				
応用問題(6回)		12	制限時間50分で実施する。 作成後、共有フォルダーに提出する。 提出した確認問題は採点し返却する。				
コンピュータサービス技能評価試験ワープロ部門 3級 試験		1					
タイピング速度コンテスト		1	10分間の入力速度を測る。 入力数が1番多かったものと入学時の入力速度測定から入力 数が1番多かったものを表彰する。				
合 計		45					
時間外学習について							
章立てごとに復習すること。練習問題、応用問題について練習をすること。 ブラインドタッチの入力練習をすること。							
成績評価の方法及び評価割合について							
検定試験の結果、提出した作品の出来(見本と同等である出来)50%、出席率20%及び授業への参加度、発言、積極性30%の100%による総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。なお、必要時間数を満たさないものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	Excel基礎		担当教員名	長尾 雄二		□ 実務経験							
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)		学科	学年	2	単位数(時間数)	2単位(55時間)						
実施時期	10月	～	3月	授業形態	講義	△	演習	○	実習		実技		○は主、△は併用
教科書 及び参考書	コンピュータサービス技能評価試験表計算部門 3級 テキスト&問題集												
授業の概要とねらい													
Office ソフトである Excelの利活用法を教科書の演習を通じて学習する。 Excelの機能を使用しての業務処理能力の向上を図る。													
到達目標													
コンピュータサービス技能評価試験表計算部門 3級に合格する。													
授業計画													
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)								
Excelの基本操作説明				2									
コンピュータサービス技能評価試験表計算部門 3級 テキスト&問題集				1	提供データのダウンロード								
第1章				5	テキストに沿って出題範囲を順に作成する。								
第2章				1									
第3章				5									
第4章				5									
第5章				1									
練習問題(9回)				18	事前に練習を行った後、試験をする。 制限時間50分で実施する。 作成後、共有フォルダーに提出する。 提出した確認問題は採点し返却する。								
コンピュータサービス技能評価試験ワープロ部門 3級 試験				1									
応用問題(4回)				16	エクセル関数や分析抽出機能を利用した表を作成する。								
合 計				55									
時間外学習について													
章立てごとに復習すること。練習問題、応用問題について練習をすること。													
成績評価の方法及び評価割合について													
検定試験の結果、提出した作品の出来(見本と同等である出来)50%、出席率20%及び授業への参加度、発言、積極性30%の100%による総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の作品があるものはD(不可)とする。													
その他(科目と実務経験との関連性について)													

科目名	会計基礎		担当教員名	長尾 雄二		<input type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)		学科	学年	2	単位数(時間数)	2単位(40時間)
実施時期	4月	～	9月	授業形態	講義	<input type="radio"/> 演習	<input type="checkbox"/> 実習
教科書 及び参考書	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級」						
授業の概要とねらい							
業種・職種にかかわらず社会人が身につけておくべき取引の基本である「簿記」を学び、企業での経理状況を把握する力を身に付ける。							
到達目標							
日商簿記検定3級に合格する。							
授業計画							
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)	
簿記について					1	仕訳が重要なため理解度を高めるための問題を解き確認する。 また、確認テストを行い習熟度を上げる。	
財務諸表と簿記の5要素					1		
記帳のルール、仕訳と勘定記入、合計・残高試算表の作成					3		
商品売買取引(三分法)					2		
掛けによる売買、返品					2		
手付金・内金の処理、商品券					2		
商品の移動に必要な支払い、立替払いの諸掛り					2		
現金・当座預金、普通預金と定期預金					2		
クレジット売掛金、約束手形					2		
電子記録債権・債務					2		
貸付金・借入金、利息について					2		
有形固定資産の取得・売却・賃借					2		
未収入金・未払金、修繕と改良					2		
仮払金・仮受金、給与					2		
訂正仕訳					2		
決算整理Ⅰ(現金過不足、貯蔵品・当座借越)					3		
決算整理Ⅱ(売上原価)					2		
決算整理Ⅲ(貸倒れ、減価償却)					3		
決算整理Ⅳ(経過勘定科目)					3		
合 計					40		
教科書で予習と授業ノートによる復習をすること。							
成績評価の方法及び評価割合について							
確認テスト・定期試験の結果40%、出席率30%及び授業への参加度、発言、積極性30%の総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	会計演習			担当教員名	長尾 雄二		<input type="checkbox"/> 実務経験		
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)		学科	学年	2	単位数(時間数)	2単位(45時間)		
実施時期	10月	～	3月	授業形態	講義	<input checked="" type="checkbox"/> 演習	<input type="checkbox"/> 実習	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> ○は主、△は併用
教科書 及び参考書	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級」								
授業の概要とねらい									
業種・職種にかかわらず社会人が身につけておくべき取引の基本である「簿記」を学び、企業での経理状況を把握する力を身に付ける。									
到達目標									
日商簿記検定3級に合格する。									
授業計画									
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
精算表					5	財務諸表について繰り返し練習問題を行う。			
帳簿の締め切り					2				
損益計算書と貸借対照表					5				
株式の発行、剰余金の配当と処分					2				
税金					1				
証ひょうと伝票					2				
模擬試験1、2、3、4・解説					8	模擬試験を行い、70点以上を合格点とする。 合格点に満たない者には補習を行う。			
模擬試験5、6、7、8・解説					8				
模擬試験9、10・解説					4				
予想問題1、2、3、4解説					8				
合 計					45				
配布する課題を期日までに提出すること。									
成績評価の方法及び評価割合について									
課題提出、模擬試験、定期試験、検定試験の結果40%及び出席率30%並びに授業への参加度、発言、積極性30%の総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものはD(不可)とする。									
その他(科目と実務経験との関連性について)									

科目名	キャリアデザイン		担当教員名	小田原 香織		□ 実務経験	
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)		学科	学年	2	単位数(時間数)	1単位(20時間)
実施時期	12月	～	3月	授業形態	講義	○	演習
教科書 及び参考書							
授業の概要とねらい							
現在、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を身に付け、社会人・職業人として自立していくことができるようにするキャリア教育の推進が強く求められている。この授業では学生個々のキャリアをデザインするために必要な基礎的な考え方・方法について講義と活動を行う。							
到達目標							
自己分析や社会・企業の理解等を通して自己の目標を定め、新しいことに挑戦する気持ちをもって有意義な学生生活を送る姿勢を身に付けることができる。また、就職活動に必要な履歴書の書き方や作文の書き方などを学び、己の力で作成することができる。							
授業計画							
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
オリエンテーション				1	就活対策、本校の就活スケジュール説明を行う。		
キャリア時代におけるキャリア教育とは				1	キャリア教育の定義、キャリア教育と進路指導の違いについて理解する。		
自己分析とは				1	就活の全体像、自分を知る、仕事を知る、自分のいる環境を知る、自分の長所(強み)、短所(弱み)、自分の特技を自己分析レポートにして作成する。		
自己PRとは				2	過去をふりかえる、プロフィールの記入法、実際に記入する、自己PRを作成する。		
自己PRのまとめと発表				2	自己PRまとめ、自己紹介と自己PRの実施(1人3分3分間スピーチ)を行う。		
業種と職種について				1	業種とは、職種とは、本学の求人票について(求人票の見方)理解する。		
作文の書き方・ポイント				1	受験対策の作文のポイントを押さえる。		
作文課題練習(計2回)				4	作文課題の提出・添削を行う。		
就活と採用試験の現状について				1	採用試験について求人票、書類提出、説明会、採用試験(1次:筆記試験、適性、SPI、2次:面接)の説明を行う。		
就職試験の研究				2	就職内定報告会を行う。		
履歴書作成練習				4	本校所定の用紙を使用する。添削を行う。		
合計				20			
時間外学習について							
自己分析レポート・作文課題・履歴書を作成して提出すること。							
成績評価の方法及び評価割合について							
レポート・作文などの内容について50%、授業への参加度、発表態度、発言、積極性40%、出席率10%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	アビリティアップ		担当教員名	長尾雄二・小田原香織・油布真奈			<input type="checkbox"/> 実務経験
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)	学科	学年	2	単位数(時間数)	1単位(30時間)	
実施時期	4月～3月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/>
教科書 及び参考書	各講座により異なる						
授業の概要とねらい							
通常の科目の学習を超えた様々な学習活動を行う。各学生の視野を広げるために、普段の学科の学習では学習できない教養を複数の講座を開講する。							
到達目標							
特別講師による講義・演習や業界の方による講義・演習を実施し、専門性の高い知識と技術を身につけることができるようになる。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
ハラスメント講座			1	ハラスメント対応を身につける			
救命講習			3	AEDなどを使用した救命講習			
フラワーアレンジメント講習			1	病院の待合室や受付など雰囲気に合わせてお花の演出の仕方を学ぶ			
患者QOLを高めるアロマテラピー講習			1	香りの正しい知識を学ぶ			
医療英語講座			4	医療機関等の受付に必要な英会話講座			
園芸療法体験講習			4	園芸療法ボランティアとして参加する			
ビジネスマナー研修			2	医療機関でのビジネスマナーを知る			
手話対応講習			2	大分県聴覚障害センターによる手話講座			
小児発達基礎講座			2	発達の特性を知り子どもへの正しい対応を知る			
児童心理学講座			2	医療現場での子どもや保護者への接し方を知る			
医療事務講演			4	病院職員による実務経験や仕事内容を知る			
調剤事務講演			2	調剤事務員による実務経験や仕事内容を知る			
登録販売者講演			2	登録販売者による実務経験や仕事内容を知る			
合 計			30				
時間外学習について							
成績評価の方法及び評価割合について							
出席率30%及び授業への参加度、発言、積極性30%、成果物・提出物40%の評価点(100点満点)を算出する。評価は90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	医療実務実習			担当教員名	提携医療機関			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験				
学科名	情報システム(メディカルSE専攻)		学科	学年	2		単位数(時間数)	1単位(30時間)				
実施時期	11月	～	11月	授業形態	講義	△	演習	実習	○	実技	△	○は主、△は併用
教科書 及び参考書	診療点数早見表 資料ブック											
授業の概要とねらい												
医療事務教育における現場実習(インターンシップ)は、学内教育で習得した知識・技術を医療現場で統合することを目的とする。医療事務職に求められる適切な行動・態度、そして責任感を医療機関の現場で修得する。												
到達目標												
インターンシップ事前教育 ①挨拶、礼儀、対応について。②OSCEの実施。 プレインターンシップ(9:00～16:00) ①実習先での社会性(挨拶、礼儀、対応など)。②積極性。③医療事務知識の統合。												
授業計画												
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)						
インターンシップ事前教育					4	現場実習(インターンシップ)は、学内教育で習得した知識・技術を医療現場で統合することを目的とし、医療事務職に求められる適切な行動・態度、そして責任感を医療現場体験で修得する。 また、医療事務職におけるルーティーンを体験することで、業務の組立を思考できることを目的とする。インターンシップ受け入れ医療機関は、本学の提携医療機関とし、医療機関側に実習指導者を置く。						
プレインターンシップ					25							
報告会					1							
合計					30							
時間外学習について												
教科書の事前予習を含め、実習時間の他10時間の自学を要する。また、実習レポートを期日までに提出し確認および添削指導を受けること。												
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について												
実習評価表の結果80%、レポート提出率10%及び出席率10%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出のレポート課題があるものはD(不可)とする。												
その他(科目と実務経験との関連性について)												
医療機関で、標準的な医療事務作業のルーティーンを理解させる。												